

2017.12 Vol.464  
関西大学通信

# Kandai Style

日本の冬  
留学生の過ごし方



寒い朝、暖かい布団に  
くるまるのが好きです。

寒い夜には、布団乾燥機で布団を温めて、敷布団の上にブランケットを敷き、掛け布団の上にもう一枚ブランケットを重ねます。これが一番暖かくてよく眠れます。すごく寒い日でも、肌の乾燥を防ぐために暖房はあまり使いません。台湾の生活では必要のない、保湿ローションとリップクリームを毎日つけます。日本の冬は乾燥するので、どうしたらいいかと今もいろいろと試しています。冬の楽しみは温泉旅行で、今まで京都や神戸などに行きました。観光ができて、食べ物もおいしいのが良いです。

台湾では旧暦（1月中旬～下旬）のお正月に、家族と親戚が集まります。1つの火鍋を、みんなで円になって食べます。これには、人の和を大切にするという意味があります。



胡裴寧(コハイネイ)さん  
(台湾)  
文学部3年次生



台湾のお正月の町飾り



東大寺にて

# 日本の冬

## 留学生の 過ごし方

今号では、温暖な気候の国々から関西大学に留学している皆さんにインタビューを行いました。日本の冬の過ごし方や、年末年始のイベントを体験した感想など、留学生ならではの声を紹介します。



マンジュラワンニナーヤカさん  
(スリランカ)  
社会学研究科  
博士課程後期課程3年次生



スリランカのお正月に食べる  
ココナツミルクライス



長野県のスキー場にて

暖房もカイロも  
すべてがカルチャーショックでした。

来日したとき、長袖のシャツなどを持ってきましたが冬の寒さに全く対応できませんでした。寒さを防ぐために何を着たらいいのかわからなかったため、チューターに相談しコートや長袖の肌着などを買いしました。来日して6年がたつ今でも、気候に合わせた洋服選びが一番苦労しています。他にも、エアコンは部屋を冷やすものだと思っていたので、まさか温かい空気が出るとは思わなかったですし、カイロも「これが暖かくなるんだ!」と、全てにカルチャーショックでした。

スリランカでは占星術が生活に根付いています。例えば、何か新しいことを始めるとき、占星術で縁起の良い日時を調べます。日本のお正月は、スリランカでは4月14日にあたりますが、占星術で調べた「縁起の良い時間カレンダー」を基にお祝いをする時間が決まっています。



林嘉明(ラムカメイ)さん  
(香港)  
留学生別科



ビクトリア・ハーバーの花火



南千里国際プラザ学生寮から見た  
初めての雪景色

気持ち良い寒さが好き。  
今年の冬には旅行を計画しています。

去年の秋に留学生別科に入学してからちょうど1年がたちました。昨年の冬、雪が降っているのを初めて見て、そのきれいな雪景色に驚きました。香港にも冬はありますが、平均気温が20度くらいで湿度も高いため雪は降りませんし、服装は1年を通してTシャツと半ズボンが多いです。洋服が好きなので、日本の四季に合わせてコーディネートを考えるのが楽しいです。今年の冬は、北海道と東京ディズニーランドに行きたいと思って旅行を計画中です。

香港のお正月には、毎年ビクトリア・ハーバーの花火大会に行きます。神戸の花火もきれいでしたが、ビクトリア・ハーバーに映る花火はそれ以上にきれいなので、ぜひ見てほしいです。



サミュエル クリスチャン  
ティオさん  
(インドネシア)  
留学生別科



タンユエン



鳥取旅行にて

冬の寒さは想像以上。  
日本の新鮮な魚介類が好きです。

イギリスで冬を過ごしたことがありますが、日本の寒さは予想外で、まず着るものに困りました。登山用のシャツやジャケットを買って、重ね着をして何とか寒さをしのいだのを覚えています。天気の良い日には、ジョギングや日光浴をして体を温めるようにしています。印象に残っているのは、友人と行った鳥取旅行。鳥取砂丘の雪が解けてできたオアシスがきれい、カニがとてもおいしかったです。

インドネシアで生まれて、マレーシアで育ちました。マレーシアでは、冬至を家族だんらんで過ごす風習があり、「タンユエン」といういろいろな色のお団子を、家族みんな仲良く暮らせるように願いながら食べます。

“やみなべ”の  
スリリングさが楽しいです。

私の誕生日である12月には、友人が鍋パーティをして祝ってくれます。鍋料理は全ておいしいので好きですが、日本独特の“やみなべ”のスリリングさは他の鍋料理にはないので最近一番好きです。

また、初詣ではお参りすることで、新しい1年を前向きな気持ちで迎えることができました。面白かったのは、私の後ろにいた人たちが投げ入れようとしたおさい銭が、私に当たったことです。自宅に戻ると、服の中からたくさんのおさい銭がこぼれました。そこにはお参りした人の願いが詰まっていたと思ったので、後で神社に持っていきました。

インドネシアでは、年越しの時間に花火があちらこちらで上がり、真っ暗な中でバーベキューをします。インドネシアでお正月に行われていることが、日本では夏に行われているので、そのギャップも新鮮です。



ハリム カルナリサさん  
(インドネシア)  
環境都市工学部1年次生



鞍馬山にて



USJのクリスマスイベントにて



みんなで一緒に考えよう。  
**関大誌上教室**

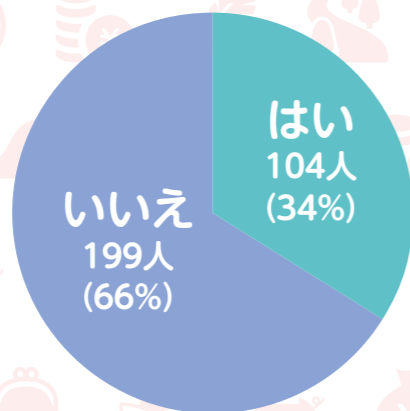
【アンケート期間】9月27日～10月10日  
【対象】関大生 【回答者】303人

# 寄付募金について

寄付や募金の仕方が多様化しています。今号では学生の皆さんに寄付や募金について考えているのかやその目的など意見を聞きました。

## Q この1年間で寄付・募金をしましたか？

※さい銭、ふるさと納税をのぞく



## この1年間で寄付・募金をしていないと答えた方への質問です

### Q 寄付・募金をしなかった理由を教えてください。

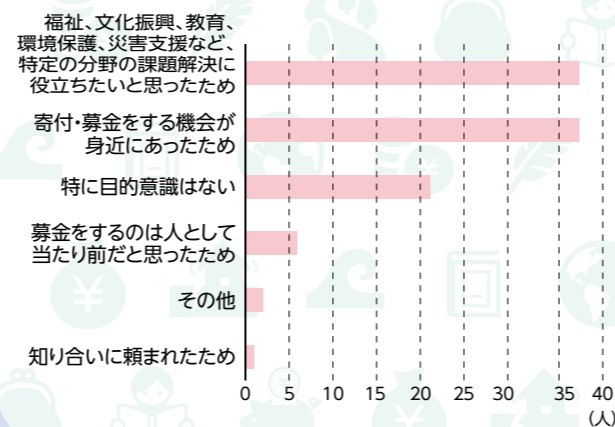
- 金銭的に余裕がないから。(経済学部4年次生)
- まだアルバイトをしておらず、自分のお金を持っていなかったから。(文学部1年次生)
- 寄付金が何に利用されるのか、本当に被災地の人が望む方法で利用されるか分からないと思ったので。(社会学部2年次生)
- 寄付、募金をする機会があまりなく、方法もよく分からないから。(社会安全学部3年次生)

## この1年間で寄付・募金をしたと答えた方への質問です

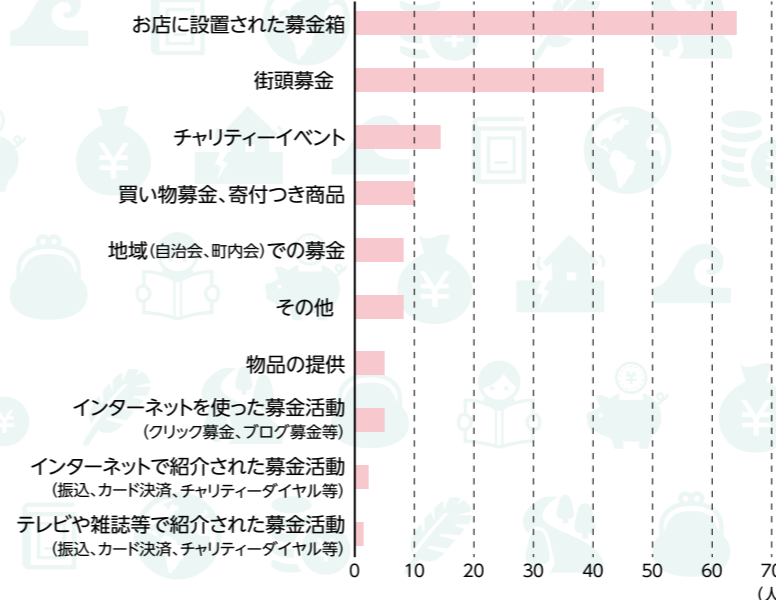
### Q 寄付・募金をした理由を教えてください。

- 高校生の時、自分が募金ボランティアをやったことがあるため。(法学部3年次生)
- 震災復興のために募金をしました。東日本大震災の復興支援で岩手県に行ったことがありますが、現地では復興のために多くの物資が必要でした。被災された方々へ少しでも手助けができればと思い募金をしました。(理工学研究科M1)
- その活動にとっても賛同したので少しでも自分が何かのためになれないかと思いました。(システム理工学部3年次生)
- コンビニエンスストアで買い物をした際、小銭のお釣りはレジ横の募金箱に入れていました。(総合情報学部3年次生)

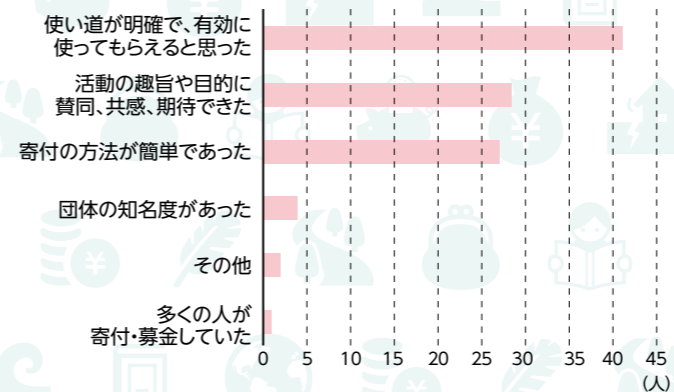
### Q 寄付・募金は何のためにしましたか？ (1つ選択)



### Q 寄付・募金をした方法をお答えください。(複数回答可)



### Q 寄付・募金先を選ぶときに重視したことを教えてください。(1つ選択)



## Q 寄付・募金についてどう思いますか。

困っている人の力に少しでもなれるものだと思います。お金だけではなく、文具の寄付も被災地の子どもたちにとっては嬉しいものではないかと考えます。寄付や募金で、社会問題に関わり、当事者になって向き合うことができるのではないのでしょうか。(社会学部3年次生)

寄付をしたお金が一体どのように使われているのかがあまりよく分かりません。自分が寄付したお金が、どのように社会に貢献できているのかがもっと分かりやすくなったらいいと思います。(文学部1年次生)

人の好意によって成り立つものであると思います。なので募金と偽ってお金を集める詐欺行為の話などを聞くと非常に残念で悔しい思いになります。(社会学部4年次生)

必要な人がいることを分かっていますが、お金の余裕がある人じゃないと募金できないと思います。(システム理工学部3年次生)

募金をするとき小さな額を出したとしても、その募金をしようという思いの人がたくさんいたら、その分多くの募金が集まるので、全体の意識を上げることが大切だと思います。(政策創造学部1年次生)

寄付・募金をするという行為はとても大切なことだと思うけれど、そのお金が本当に自分が思っているような用途に使われているか、信用できるところを慎重に選んで募金・寄付をしなければいけないと思います。(社会学部3年次生)

寄付や募金は任意であるのに、しないことは良くないという風潮が強いと思います。(文学部2年次生)

今はあまり率先して寄付などはしていませんが、社会人になったら働いたお金で困っている国に寄付をしたり物を譲ったりしたいと思います。きちんと寄付したお金がどこに使われるのかを明確に示すのは大事ですが、身近に募金をする機会があれば人は増えると思います。(社会学部1年次生)

とても良いものだと思いますが、機会がないとやらないことが多いです。(政策創造学部2年次生)

集まったお金がその後どうなったかを知ることができるなら募金をしたいです。商品の売り上げの一部が〇〇に使われます、というのならばその商品を選ぶようにしたいです。(理工学研究科M2)



PROFESSOR'S COMMENTS  
法学部 坂本治也教授

「困っている人の力になりたい」という気持ちは、人間の本性に由来し、国や時代を越えて普遍的に見られます。しかし、「いつ、誰に支援するのか」について、人は割と合理的に判断しています。誰彼問わずいつでも盲目的に支援するわけではありません。寄付が有効に活用され、困っている人がちゃんと救われる実感があれば、なかなか人は寄付をしません。

アンケート結果にも表れていたように、日本で寄付が十分な広まりを見せていないのは、使い道がよく分からない、寄付先の団体が信用できない、どこに寄付したらいいのか分からない、などが原因です。要するに、寄付をする側と集める側の間のコミュニケーション不足が問題です。今後、寄付に関する研究・教育の充実、寄付を集める団体側の情報発信強化、クラウドファンディングなどの寄付手段の多様化などが求められるでしょう。やり方と工夫次第で、日本人の寄付行動を飛躍的に活性化することは十分可能だと思っています。寄付に関する研究を深めたい方は日本ファンドレイジング協会編『寄付白書2015』、および11月末に発行予定の『寄付白書2017』をご覧ください。

次回のテーマは…「クイズで考えてみよう！冬季オリンピック(仮)」

クイズ形式でアンケート調査を行いました。  
自国でのオリンピック開催について考えてみましょう。

12月号「関大誌上教室」アンケート  
プレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケート「寄付・募金について」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します(12月1日に通知予定)。「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。



エンターテインメント業界／落語家



株式会社米朝事務所

桂 米輝 (大谷 輝弥) さん

奈良県立西の京高等学校出身

2008年経済学部卒業

「後悔したくない」という思いで  
飛び込んだ世界でお笑いを極める。

大谷輝弥さんは、桂米輝の名で、天満天神繁昌亭をはじめ、いろいろな寄席などで活躍している若手の落語家です。

高校時代から「お笑い芸人になりたい」という夢を持つようになりましたが、意外にも性格はあがり性だったそうです。「関大は個性豊かな学生が多いので、君に合っているよ」という担任教師の勧めと、経済学に興味があったため、経済学部を受験して合格。入学後は、「人を笑わせたい」という気持ちから、文化会落語大学に入学し、落語会を開催した他、老人ホームへの慰問にも出掛けました。入居者やスタッフに喜ばれ、落語の楽しさを実感したそうです。落語大学での活動が最後となる4年次の学園祭では、古典落語『桜の宮』を披露。呼び込みで来てもらった方からも喝采を浴び、うまくできたという手応えから、最も思い出に残るイベントになったそうです。卒業する頃にはすっかりあがり性を克服し、人前に立つことが楽しいとさえ思うようになっていました。

卒業後、一度は就職しましたが、「プロの落語家になりたい」という夢を捨てられなかった米輝さんは、26歳の時「やらずに後悔するより、やって後悔しよう」と、桂米團治師匠の門をたたきます。見習い期間を経て、2011年7月7日に晴れて弟子に。3年間の修業期間中は、師匠の身の回りの世話や古典落語を口伝えで習い、技術の向上に努めました。修業期間が明けた後、自作の落語も創作できるようになります。自作の落語は、まずタイトルを決めてポスターで告知した後に、内容を考えるのだとか。自分を追い込んで作品を作るタイプなのだそう。

今年6月、上方落語の次世代スターを発掘する「第3回上方落語若手斬家グランプリ」で、自作の『イルカ売り』を演じて見事に優勝を果たします。受賞時を振り返り、「一つのステップを越えた実感がありますね」と目を輝かせました。現在は、師匠の独演会の前座で古典落語を披露する機会が多いですが、受賞後は創作落語のリクエストも増えたと言います。

「私なりの『芸』でお客さんに笑ってほしい」という米輝さんは、三味線やアコーディオンといった特技を生かした音曲漫才にも挑戦しています。「自分の個性を常に表現するようにしています。私を見てくれるお客さんを増やすため、今後はメディアなどにも出演して知名度を上げていきたいと思います」と意気込みを語ってくれました。

ある1日の  
スケジュール

- 11:30 移動
- 12:00 天満天神繁昌亭に到着  
着替えや事前準備、出番  
前のイメージトレーニング
- 13:00 舞台上に出演
- 13:15 出籠子の笛や太鼓を演奏、師  
匠の身の回りのお世話など
- 16:00 お客さんのお見送り、衣  
装の片づけなど
- 17:00 師匠宅で稽古
- 18:00 帰宅後、就寝まで稽古



舞台上に上がるときに必須の扇子と手ぬぐい。落語の小道具として使います。

# Comic Storyteller

# VIVA!!

# 学び易



環境都市工学部 エネルギー・環境工学科

## 「特別研究2(分離システム工学研究室)」

### 田中俊輔 准教授

## 「ナノ空間材料」を利用した分離技術で エネルギーや地球環境問題の解決に貢献したい。

研究の苦勞を通して、仲間を思いやる心と社会で生き抜くための力を育む。

田中俊輔准教授の分離システム工学研究室では、分離技術に必要なナノ空間材料を製作し、それを利用した吸着、膜分離、触媒反応について研究しています。分離とは、混合物から目的物質を取り出したり、不純物を除去して純度を高めたりすることです。研究室では、1ナノメートル(10億分の1メートル)ほどの微細な単位格子が規則的に配列して構成される、ゼオライトや多孔性金属錯体といったナノ空間材料を製作しています。これらを使うと、分子の大きさや分子構造の違いで特定の分子をふるい分けることができます。地球温暖化の原因とされる二酸化炭素もこの方法で分離し、浄化した空気だけを大気中に放出できるため、環境問題対策にも寄与できるのです。また、触媒機能で、分子を異なる性質に作り変える研究にも取り組んでいます。

産業や工業の分野では、分離工程で多くのエネルギーが消費されています。分離には、主に蒸気圧の差(沸点の差、蒸発のしやすさ)を利用した蒸留法が使われていますが、多大な熱エネルギーが必要となるため、非効率でエネルギーロスが多いのが現状です。そこでナノ空間材料を利用して分離できれば、熱エネルギーがいらないため、省エネルギー化につながります。田中准教授は、「実用化に向けて、機能の向上や耐久性の研究を継続的に進めています」と話します。

「特別研究2」では、学生一人一人が異なるテーマの研究に取り組んでいます。過程を確認するため、途中経過や結果、考察について記した研究報告書を基に、定期的に学生と1対1でディスカッションを行います。また、同じ材料を扱うグループに分かれてディスカッションも実施しています。「仲間の研究を知ること、多彩な研究内容や実験方法に触れ、お互いを高め合うことにつながります。また、研究に関連する論文を読むことで、情報収集力が上がり、より広い知見を取り入れられます」と田中准教授。

研究では答えが解明されていない事象に取り組むため、思い通りにいかないことが発生します。しかし田中准教授は、「予想した通りの結果では面白くないですし、進歩もありません。予想に反する結果が出た時こそ、苦勞してその原因を探求することに研究の醍醐味がある」と言います。最後に「計画を立てて実施し、結果を考察するという基本姿勢や課題を発見して解決する過程は、社会に出て問題にぶつかった時に役に立ちます。簡単に答えを得るのではなく、苦勞しながら、新たな知見を得たり、知的好奇心を満たすような結果を自ら発見したりして、社会で生き抜く力を身に付けてほしい」と締めくくりました。



宮川紗奈さん(4年次生)

1年次に、人の生活を良くする仕事に携わりたいという思いから水処理に興味を持ち、それならこの研究室だと考えて選びました。実験で失敗しても、先生が親身になって助言してくれるので、安心して研究ができる環境です。今後は大学院で学び、将来は技術職に就きたいです。



今若孝太さん(理工学研究科1年次生)

地球温暖化問題の原因とされる二酸化炭素の分離について学びたいと思い、分離専門の研究室を選びました。学会で発表する機会が多いので、良い経験になっています。将来、環境問題やエネルギー問題に関わる仕事に就くために研究に励んでいます。



環境都市工学部

田中俊輔 准教授

「研究室はチーム」を研究室のモットーとしています。自分1人で研究を進めるのではなく、互いに協力し高め合う気持ちを持ってほしいからです。そのために、「みんなで楽しむ」というテーマの下、教員と学生、学生同士の親睦を深めるイベントを学生主体で開催しています。研究生活をみんなで楽しめる学生、そして苦勞も楽しめる学生に参加してほしいです。



## お寺に変身した学舎を留学生が見学

5月号(459号)の「学舎がお寺に変身」で、千里山キャンパス近くの千里寺(武田達城住職)を紹介すると、その記事がひょんなことから回りまわって、留学生のサポート団体の耳に入りました。そこで7月、15カ国から参加した留学生35人が、巨大なシャンデリアがぶら下がった千里寺の本堂を見学したり、境内で地元の人たちから盆踊りを教わりました。校舎移築の歴史をひも解いた3月号(457号)「関大は100年前からエコだった」の第2番外編です。

### 15カ国35人が参加



千里寺見学のきっかけは、『関西大学通信』5月号(459号)の「学舎がお寺に変身」を読んだOBの岡崎強一さん(1967年、文学部卒業)らの呼び掛けで、世界の若者たちと日本の地域コミュニティの橋渡しに取り組む「ワールドキャンパスインターナショナルインコーポレーティッド」と、吹田市周辺で市民レベルでの国際交流を目指す「吹田国際隣人グループ(SING)」が企画しました。

吹田市での活動では7月4日から10日までさまざまな交流を重ねました。6日は関西大学の国際部を訪問し、学生たちと「進路を決める大きな要因は自分の意志か、家族の意見か」「友人を助けるためのうそは許されるか」「宗教の異なる人との結婚について親はどう考えているか」など、若者が興味のあるテーマで話し合いました。



巨大なシャンデリアが目立つ千里寺の本堂を見学する留学生たち

### 本堂にシャンデリア



千里寺では直径1.5メートルのシャンデリアが目立つ本堂で、①もともと昭和天皇の即位の大礼に伴う京都市内の饗宴場として使われた建物だった②即位の大礼後、建物の一部が関西大学に移築され、講堂や武道場として使用③戦後の新学舎建設に伴い、OBの紹介などで千里寺の本堂として再利用——というこれまでの90年近い歴史と経緯の説明を受けました。留学生の一人は「そんなに由緒のある建物を2度も再利用できるのは木造建築ならではですね」と話していました。



地元の人から盆踊りの手ほどきを受ける留学生たち

### 鐘つきや盆踊りのけいこも



この後、夕刻の境内で、2人1組になって鐘をつきました。うまくついていたペアもいましたが、うまくいきすぎて、大きく鳴り響いた鐘の音にびっくりして耳をふさぐ留学生もいました。境内では「千里山商栄会」の岡田会長、上田副会長ら地元の商店主が、慣れた手つきでカキ氷をご馳走してくれました。また、吹田市和装礼法しげりきもの連盟の方に浴衣を着付けていただき、佐井寺自治会会長の西盛氏を中心に輪になって盆踊りを教わり、異文化交流のひとコマになりました。



浴衣に着替えて鐘をつく留学生



理工学研究科 博士課程前期課程2年次生

# 高島 望花さん

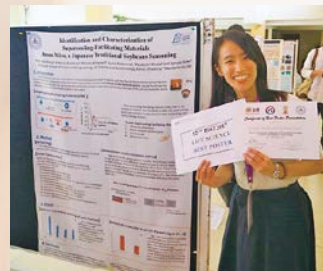
詩吟と留学の経験を生かして日本と世界の懸け橋になりたい。

高島望花さんが、長年熱心に取り組んでいるのが「詩吟」です。漢詩や和歌を独特の節を付けて詠む芸能で、小学校1年生の時に、その節回しに感動したのがきっかけで始めました。中学生の時に出場した全国大会で、吟詠に合わせて模擬刀の日本刀や扇で舞う剣舞を初めて見て、詩文を舞で表現する迫力に魅了されます。この時、「大学生になったら剣舞を習いにいこう！」と決めたそうです。関大には、詩吟と剣舞に取り組める文化会吟詩部があることを知り入部。練習の中で礼儀作法や美しい所作を学びました。17年続けている詩吟に比べて経験の短い剣舞では、自身の剣舞を撮影したものを見直して、繰り返し練習するのだとか。詩の情緒を動きで表現できているかを常に意識しているそうです。

学部の入学当初から留学を考えていた高島さんは、計画的に単位を修得し、3年次に半年間海外留学へ。高校生でアメリカに短期留学した経験があり、「いろいろな考え方や文化があることを知った」と言います。また、自分の思いを英語で十分に伝えられなかったことが心残り、「さまざまな国の人が集まる場所で、英語と文化を学ぼう」と留学先をオーストラリアに決めました。それまでは、あまり自分の考えを主張しない性格でしたが、オーストラリアでの生活の中でいろいろな困難に遭遇し、意見をはっきりと言うことの大切さを学びました。

帰国後は「もっと深く研究したい」という思いが強くなり、研究に専念しました。何事にも懸命に取り組む高島さんは、4年次に大学院への進学を決めます。今年の8月には、マレーシアで開催されたシンポジウムのライフサイエンス部門で、ベストプレゼンテーションポスター賞を受賞しています。

研究開発員として、携帯のフィルムや絶縁テープなど多岐にわたる商品を扱う素材メーカーに内定している高島さんは、「開発者として顧客である企業のさまざまなニーズを聞き取り、新しいものを世に出したい」と意欲的です。海外事業も展開するという企業で、日本の伝統文化である詩吟や、留学で学んだ異なる文化や考え方を生かし、「多様な考え方のできる日本人として、世界との懸け橋になりたい」と将来への思いを熱く語ってくれました。



マレーシアで開催されたシンポジウムにて

次回は、高島さんからのご紹介で濱地亮太さん(外国語教育学研究科M2)が登場。

お楽しみに!

# Mika Takashima

# 学部・研究科ピックアップ

## 法学部／法学研究科

### 2017年度学位（博士）記授与式

9月19日に2017年度学位（博士）記授与式が挙行され、博士課程後期課程修了生および論文博士に対して、芝井敬司学長からひとりずつ手渡しで学位記が授与されました。法学研究科からも1名が学位記の授与を受け、「法学博士」の称号を得ることとなりました。博士号を取得するためには博士論文の執筆が必要となります。日々の研鑽を怠ることなく膨大な時間をかけ、血のにじむような努力の末に論文を完成させ、厳しい審査を経て博士号を得た喜びはひとしおでしょう。心よりお祝い申し上げます。（副学部長 寺川永教授）

## 文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

### 学校インターンシップ

学校インターンシップとは、大学生が幼稚園から高校にわたる学校現場で就業体験するプログラムです。教育実習は、授業に力点がおかれ、また教職課程の最終段階に行われます。しかし学校インターンシップは1年次より参加可能で、短期連続型や長期型などさまざまな補助業務を経験しながら現場の空気を感じることが可能です。今年度も文学部を中心に124人の学生が、59校に派遣されています。教員になりたいと考えている皆さんは、ぜひ早めの参加をお勧めします。（学生主任 澤井一彰教授）

## 経済学部／経済学研究科

### Alessio Moneta教授の学術講演会

経済学部主催で関西大学 招へい研究者 Alessio Moneta 教授（サンターナ大学院大学教授）による学術講演会“Searching for the causes of the Eurozone crisis (and for possible solutions)”を9月21日13時00分～14時30分（第3時限）に第2学舎4号館F401教室にて開催しました。EU経済の問題点とその解決方針をさまざまな方向からご議論くださいました。（片山直也教授）

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

## 商学部／商学研究科

### イギリス留学BestAでは日本語禁止！

商学部独自の留学プログラム BestAがヨーク大学（英国）で実施されました。4週間コースは8月上旬からの1カ月間、1学期コースは9月上旬から3カ月間、英語でビジネスを学びます。ビジネス・スクールの授業をイタリア人、中国人学生と合同で受講します。日本語は一切禁止です！（小井川広志教授）

## 社会学部／社会学研究科

### 社会学部50周年記念式典

10月28日に、学長、理事長、社会学部同窓会長をはじめ、多くの方に出席いただき、社会学部50周年記念式典・祝賀会が行われました。また、節目に際して『関西大学社会学部50年史』も刊行されました。出席者一同、社会学部のさらなる発展に向けて気持ちを新たにしたい一日でした。（副学部長 森田雅也教授）

## 政策創造学部／ガバナンス研究科

### 10周年記念シンポジウムのご案内

政策創造学部創立10周年を記念して、12月14日（木）13時より千里ホールにて、「大阪 現代都市問題の課題と展望」と題したシンポジウムを開催します。鈴木亘先生（学習院大学）より「西成特区構想とそこから見える大阪改革のあり方」という題目で、また佐野章二氏（ビッグイシュー日本代表）より「自助型の応援」から政策提案へーホームレス問題・支援の多様な展開」という題目でご講演いただき、その後本学部の専任教員も交えて討論を行う予定です。都市問題にご関心をお持ちの方はぜひご参加ください。（森田崇雄助教）

## 外国語学部／外国語教育学研究科

### もういくつ寝ると…

12月は師走というだけあって、クリスマスやお正月が近づいてくると慌ただしく落ち着きがなくなってきましたね。私たち外国語学部のスタッフも12月になるとそわそわし始めます。冬休みが待ち遠しいではありません。Study Abroadに行っていた2年次生が帰国する日が近づいてくるからなんです。毎年9カ月の留学を終えた学生は目を見張るほど成長して日本に戻ってきます。今年もたくましく成長した学生の姿が見られるのを指折り数えて待っています。（平嶋里珂教授）

## 人間健康学部／人間健康研究科

### 多文化理解へのいざない

秋学期から国際健康福祉実習（ハワイ、インドネシア）プログラムの事前学習が始まりました。年々希望者も増え今年も多くの学生が登録してくれました。これから本番に向けて、プランテーション文化や歴史、宗教、スポーツアクティビティ、日系の方をはじめとする多文化社会における社会課題について学んでいきます。（学長補佐 岡田忠克教授）

## 総合情報学部／総合情報学研究科

### 「卒業研究」で成長する！

総合情報学部では、全ての学生が3年次からゼミに所属し、4年次には学習の集大成として卒業研究を行います。ちょうどこの時期はその追い込みの期間に当たり、論文の執筆や作品の制作に懸命に格闘している学生が多いことでしょう。自分なりにテーマを設定して研究を進め、担当教員やゼミ仲間の協力も得ながら完成させる—これは、実に大変な作業ではあるけれども、取り組んだ分だけ見返りのある、力を尽くすに値する課題です。卒業研究を自分の成長のための貴重な経験と捉えましょう。（教学主任 植原亮准教授）

## 社会安全学部／社会安全研究科

### 損害保険に関する寄付講座開講

日新火災とアドバンスクリエイトの寄付講座「安全・安心な社会を支える保険制度」を開講。リスクファイナンス関連講義を補う内容で希望者が500人を超え抽選しました。あいおいニッセイ同和損保の伊藤直己・執行役員によるテレマティクス保険最先端の話を、ホールを埋めた学生は聴き入りました。（亀井克之教授）

## システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

### 終わり良ければ…次も良い？


12月は1年の終わり。今年を振り返りつつ、年末をどう迎えるかを考えるところでしょうか。しかし、終わりは次の始まりでもあります。次の準備を始めましょう。例年この時期は「安全衛生週間」があります。4年次生を中心に研究室に配属されている学生は、これまでも多くの実験をしてきたとは思いますが、手慣れてきたこの時期だからこそ、もう一度基本に戻って、安全な環境の維持・向上を進める行動をチェックしてください。また、特別研究や卒業設計が大詰めを迎え、忙しくなってきたことと思います。研究内容そのものも大事ですが、それを進める基

本的な考え方を身に付け、必要な所作や段取り・計画の遂行能力の体得も重要な目的です。研究を遂行する総合的な力が身に付いたかどうか、もう一度自分に問い直してください。3年次生は、大学院への進路も含め、就職活動などについて考える時期ですね。勉強してきた学問分野の様子も分かってきたことでしょうか。どのような能力や技術を取得し、社会でどのように役立てることができるか、日々の勉強と関連付けながら将来像を描いてみましょう。また、12月3日（日）には、2年次生の父母・保護者には「キャリアプランニングセミナー」が行われます。それ

をきっかけに、家族でキャリアデザインについて話す機会があるといいですね。大学生活について少し分かってきた1年次生も考える機会を作ってください。キャリアデザインは難しいことのように思えるかもしれませんが、まずは、充実した大学生活を送ることが第一です。目標が見つからない人はその充実した生活から目標を見出すことができるでしょう。目標が定まっている人は、そこに向かっていく効果的なプロセスを組み立ててください。（環境都市工学部入試主任 北詰恵一教授）

## 専門職大学院トピックス


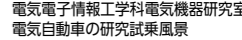
### 会計専門職大学院

12月16日（土）に進学説明会を開催  会計専門職大学院では、12月16日（土）13時から新関西大学会館にて進学説明会を開催します。今回は、全体説明や施設見学に加えて、新企画として在学生との座談会を予定しています。本大学院でこれまでどのように学び、修了後はどのような道に進むのか等々、本大学院に関心のある皆さんにとって、大変貴重な情報を得る絶好の機会になると思います。また、簿記・会計の既習者だけでなく、未修者の方も大歓迎です。多数のご来場をお待ちしています。なお、本大学院の1月募集など入試の詳細につきましては、本大学院のウェブサイトをご覧ください。 <http://www.kansai-u.ac.jp/as/admission/index.html>（入試主任 中村繁隆教授）

## 併設校トピックス

### 関西大学北陽中学校

#### 中学2年生中大連携プログラムを実施

9月15日に理工系3学部との研究室体験プログラムが中学2年生（131人）を対象に行われました。今年度  電気電子情報工学科電気機器研究室は18グループに  電気自動車の研究試乗風景に分かれ、20人以上の先生方に協力いただき、大学院生などの学生の支援を得ながら、研究室を体験しました。また、今年度からプログラムに学生へのインタビューを加え、事後学習では、総合学習で行っているNIEと連携し新聞社への投稿を予定しています。生徒たちは、興味を持ちながら大学生にいろいろな質問をしており、有意義な1日となりました。（教頭 川崎文章）

## Attention 大学からの重要なお知らせ

試験対策をしっかりと立て、1年間を有意義な結果で締めくくりましょう。

### 「定期試験（筆記試験）」「到達度の確認」の注意事項・受験心得

- ① 学生証は必需品！**  
学生証がない場合は、試験を受験できません。  
○紛失した場合：再発行の手続きを。  
教務センター、または各キャンパス事務室にて。  
○試験当日に忘れた場合：「受験許可証」の発行を。  
教務センター・各学舎授業支援ステーション、または各キャンパス事務室にて。
- ② 遅刻は厳禁！**  
授業も試験も遅刻は厳禁。受験できない場合もあります。また、交通機関の遅延など、不測の事態にも対応できるよう、早めの通学を心掛けてください。
- ③ 試験前の確認！**  
通常授業と教室が異なったり、同じ科目でも学籍番号によって、教室が分かれている場合があります。  
○学籍番号・氏名を記入するため、ボールペンは必須です。（ただし、消せるボールペンは使用不可）  
○携帯電話・スマートフォン、ウェアラブルデバイス等は時計として使用できません。
- ④ 不正行為には厳正に対処します！**  
不正行為をした場合は、秋学期試験ですでに受験した科目は全て無効になり、残りの科目も一切受験できません。また、答案の持ち帰り、故意に学籍番号・氏名を偽った場合も不正行為とみなされます。
- ⑤ 病気など正当な理由で受験できない場合は…**  
医師の診断書など証明書がある場合は、「追試験」・「到達度の確認に相当する学力確認」を受けることができます（受験料1,000円）。  
教務センター、または各キャンパス事務室で手続きしてください。
- ⑥ 成績発表の日時・確認方法**  
インフォメーションシステムで発表します。詳細は「試験システム」で確認してください。



## 関大トピックス

### 関大生限定イベント!「梅閑祭」を開催

10月22日、梅田キャンパス「KANDAI Me RISE」の開設1周年を記念して「梅閑祭」が開催され、同キャンパスのコンセプト「人を導き、繋ぎ、自ら起こし、創る「人」を育成～「考動」を実践する場の創出」をテーマにさまざまなイベントが行われました。

1・2階のBOOK&CAFEエリアでは、「梅閑祭」限定のオリジナルカスタマイズフラペチーノを販売。関大生による生演奏に、来場者たちは優雅で楽しいひとときを過ごしました。特に会場を沸かせたのは、現役シンガーソングライターの花房真優さん(経4)のライブ。花房さんの美しい歌声に会場は一体となり、あたたかな空気に包まれました。

また上層階では、関大ルーツのスイーツ(らぼっぱ、五感、りくろーおじさん)を楽しめるスイーツフェスははじめ、旅を広める活動続ける株式会社TABIPPO代表の清水直哉氏によるイベント、大阪ベルエール美容専門学校協力によるハロウィンネイル体験会、学生団体企画のイベントなど、パリエーション豊かなイベントも開催。参加した学生はさまざまなイベントに満足した様子でした。



### ピア・コミュニティ創設10周年記念「ピア・サポート活動報告・交流会」を開催

梅田キャンパス「KANDAI Me RISE」で10月22日、ピア・コミュニティ創設10周年記念「ピア・サポート活動報告・交流会」を開催しました。

現在、学生支援の輪が学生間にも年々広がっています。学生自身が企画・運営する「ピア・コミュニティ」も学生支援に取り組む団体の一つで、2008年の発足以降、「国際」「スポーツ」「図書」「IT」「イベント企画」「学生相談」など、多分野にわたる活動を展開しています。

当日は、「協同学習」「学修支援」等を専門とする山田嘉徳氏(大阪産業大学講師)による講演、ならびに現役サポーターと大学教職員によるパネルディスカッション等を通して、「過去・現在・未来」の3つの時間軸から大学ピア・サポートの意義を考えました。「過去」のピア・コミュニティ立ち上げにまつわるサウスカロライナ大学での視察調査の話から、「現在」の帰属意識をもって日々の活動に真剣に取り組む学生たちの奮闘、それらに関わる教職員の思い。さらにそうした議論を受け、フロア全体によるワークでピアの「未来」について意見を交換し、事業拡大に向けたヒントを探りました。



### 社会学部創設50周年記念式典を開催

千里山キャンパスで10月28日、社会学部創設50周年記念式典を開催しました。社会学部は、本学で6番目の学部として1967年に創設され、今年4月に50周年を迎えました。

式典では、芝井敬司学長、池内啓三理事長、張清国客員教授(韓国・東国大学校総長)らから祝辞が贈られたほか、学長表彰式を挙行。7月に開催された世界パラ陸上競技選手権大会2017において、陸上男子(視覚障害)5,000mで2大会連続銅メダルを獲得した、同学部卒業生の和田伸也さんに表彰状と副賞を授与しました。

また、50周年を記念して刊行した「関西大学社会学部50年史」の編集委員長を務めた片桐新自教授が、同学部の歴史について講演を行いました。



### 体育会陸上競技部女子駅伝チームが、第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会で5位入賞

10月29日に宮城県仙台市で行われた、第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(社都駅伝)に体育会陸上競技部女子駅伝チームが10年連続で出場。過去最高の5位に入賞し、シード権を確保しました。また12月30日(土)に開催予定の富士山女子駅伝への出場の切符も獲得。これからの活躍に期待が寄せられます。



## 関大人 四方山話 ◆「学んで生きる者」社会学部

よもやまばなし



30年ほど前のこと、民間のある研究団体で会の運営について相談していた。会費収入が減り、放置できない。しらべてみると、少なくとも学生会員が卒業後も一般会員の資格に切り替えることなく、割安の会費しか納めていなかった。

「社会人としての自覚がない」「毎年、学生証の提示を求めるときだ」「大学院生はどうするのか」など、さまざまな意見が出た。混乱のなか、「学んで生きていけば、その人は学生だ」との声。発言し

永井良和教授

たのは、哲学者の故・鶴見俊輔さんだった。議論はいつそう混乱もしたが、けっきょく、その会では学生かどうかは自己申告によることに決した。

ゼミの卒業生に会うと、よく「学生にもどりたい」と愚痴をこぼされる。かくいう私も、自分を「教員」あるいは「研究者」と思い日常を過ごす。けれども、人は生きていくかぎり学びつづける存在であるはずだ。「学んで生きていけば、その人は学生だ」。鶴見さんの残した言葉が、いまになって重い。

## 編集後記

1月、トルコで銃乱射事件。2月、金正男氏殺害事件。3月、朴槿恵前大統領逮捕。4月、浅田真央引退発表。5月、国民投票法成立。6月、ロンドン、テヘラン、ブリュッセル、パリでテロ。7月、九州北部豪雨。8月、日本サッカーW杯出場決定。9月、桐生祥秀9秒台を記録。10月、カタールニヤ州で独立を問う住民投票実施。▼2017年の出来事を並べてみました。ここで問題です。一つだけ10年前の出来事があります。答えは? 5月の出来事です。このお話のオチは? 少年易老學難成▼一寸光陰不可輕 (広報委員長・総合情報学部准教授 西田晃一)



## 関西大学通信「KANDAI STYLE」

発行日:2017年12月1日(年9回発行)  
発行:関西大学広報委員会  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
電話:06-6368-1121(大代表)

## 今月の表紙



モデル:(後列左から)関西大学野球チームSqueeze 乾祐華さん(人1)、神崎愛永さん(人3)、太菜莉香さん(社2)、(前列左から)高田紗砂さん(人1)、田平安優さん(人1)、松波花菜さん(人1) 関大で女子野球しませんか? 私たちは、堺キャンパスで週2回活動しています。初心者が多く、楽しみながらも真剣に練習に取り組んでいます。メンバーを募集中です。興味がある方はぜひ!! 主将 太菜莉香さん(社2) 堺キャンパスにて撮影